

# ごあいさつ

皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第104期第2四半期(平成20年4月1日から平成20年9月30日まで)の営業の概要と決算の状況につきましてご報告申し上げます。

当行の第104期第2四半期決算は、米国発の金融市場の混乱による日米アジア同時株安の影響を受け、株式等の償却を1,767百万円計上したことから、経常損失となりました。しかし、お客様第一主義のもとお客様の実態把握を徹底したことにより、信用コストが前年同期比4,749百万円減少し724百万円に留まったことから、中間純利益では522百万円の黒字を計上することができました。

当行は、「役に立つ銀行」「信頼される銀行」「発展する銀行」という経営理念のもと、地域から頼られる銀行を目指しております。その実現に向けて、平成19年度下期から平成21年度を集中改善期間とする「プランフェニックス」を策定し、「営業力の強化」「資産の健全化と効率化」「コンプライアンス態勢・リスク管理態勢の強化」「経費の削減」「自己資本の強化」に取り組んでおります。

営業力の強化では、先進行が持つ様々なノウハウを積極的に活用することで、地域への円滑な資金供給や質の高い金融サービスの提供を行い、地域経済の発展に貢献することに力を注ぎ、「東和機械担保ローン」や「為替変動リスクヘッジ商品の紹介業務」、「確定拠出年金業務」などの新商品・新サービスの提供を行っております。

資産の健全化と効率化では、企業支援室における企業再生支援強化や不良債権処理の促進に向けた取り組みや東和フェニックス株式会社における外部の企業再生・債権回収ノウハウを活用した効率的かつ迅速な企業再生支援・不良債権処理に取り組んでおります。

コンプライアンス態勢・リスク管理態勢の強化では、取締役会や監査役会による経営監視、牽制が適切に機能しているかについて、第三者の委員で構成する「外部評価委員会」において客観的な評価を受けるとともに、「ノープレスオブリージ」を合

言葉として、全行的なコンプライアンス態勢の確立に取り組んでおります。また、経営責任の認識強化や社外取締役を含めた取締役会における意思決定プロセスの透明性の確保等、経営管理態勢の強化のため、取締役任期を2年から1年へ短縮いたしました。

経費の削減では、役員報酬と行員賞与の削減による人件費の圧縮と事務費の削減に取り組んでおります。

自己資本の強化では、当行の自己資本比率は国内基準行の健全性を表す4%を超えているものの、十分な水準にあるとは認識しておりません。自己資本の増強は喫緊の課題であり、更なる自己資本強化策についても検討を続けてまいります。

当行は、これからも「地域から頼られる」銀行を目指し、「プランフェニックス」に掲げた諸目標を着実に推進し、株主様並びにお取引先の皆様方の信頼を回復し、皆様方のご期待に沿うよう専心努力してまいりますので、変わらぬご支援ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



平成21年1月

株式会社 東和銀行  
代表取締役頭取

吉永國光